

製品名: CPA5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09307**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	CPA5
別名	CPA5; Carboxypeptidase A5
遺伝子 ID	93979.0
SwissProt ID	Q8WXQ8
免疫原	抗血清はヒト CPA5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

背景

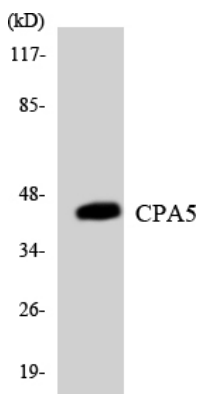
カルボキシペプチダーゼは、食物の消化から神経内分泌ペプチドの選択的生合成まで、幅広い機能を有する。CPA5 などのカルボキシペプチダーゼ A/B サブファミリーのメンバーは、約 90 アミノ酸からなるプロ領域を有し、活性カルボキシペプチダーゼドメインの

フォールディングを補助する。プロ領域の切断により酵素は活性化される (Wei et al., 2002 [PubMed 11836249])。[OMIM 提供、2008年3月]、触媒活性: C末端アミノ酸を遊離するが、-Asp、-Glu、-Arg、-Lys、または-Proとはほとんどまたは全く反応しない。、補因子: サブユニットあたり1個の亜鉛イオンに結合する。、類似性: ペプチダーゼ M14 ファミリーに属する。、組織特異性: 発現が非常に低いか、検出されない。、

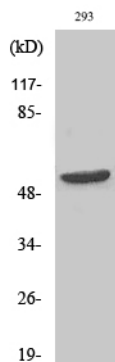
研究分野

-

画像データ



CPA5 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



CPA5 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析